カリキュラム考Ⅲ
幼稚園における英語活動を通して
年長児の活動１－１

上　野　めぐみ*

［**要旨**］文部科学省から平成 20 年 3 月 28 日告示された幼稚園教育要領。第二章では、幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などがねらいとして示され、そしてこれらのねらいを達成するために指導する事項が内容として記された。さらに、それらを　健康　人間関係　環境　言葉　表現　幼児の発達の側面からまとめ記した。教育指導要領に即した英語活動は　どうあるべきか、活動の意義を新たに問いながら、今年度は　年長クラスのカリキュラム前半について再考を試みる。

１：幼稚園における英語活動

平成 20 年 3 月 28 日　文部科学省より告示された幼稚園教育要領。そこには、文部科学省告示第二十六号として、こう記されている。

―学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第十一号）第三十八条の規定に基つき、幼稚園教育要領（平成十年文部省告示第百七十四号）の全部を次のように改定し、平成二十一年四月一日からの施行する。―とある。今回、教育基本法、学校教育法（抄）、学校教育法施行規則（抄）、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、保育所保育方針、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第三条第一項第四号及び同条第二項第三号の規定に基つき、文部科学大臣と厚生労働大臣とが協議して定める施設の設備及び運営に関する基準（抄）を、通して何度か読み返してみることにした。特に小学校学習指導要領第 4 章外国語活動については、細心の注意を払い　精読した。第 1 目標　第 2 内容　〔第 5 学年及び第 6 学年〕第 3 指導計画の作成と内容の取扱いには　幼稚園における英語活動、教材、カリキュラムに関してのコアが示されている事は言うまでも無いであろう。今回は、実際　文京幼稚園年長クラス 2006 年度、2007 年度、英語活動Ⅲ期についての考察を進めて行くことにする。前回、文京幼稚園の教育課程の視点から考える英語活動がどうあるべきかを記した。Team 保育や各個性の尊重、自立心や「生きる力」の育成などが当園の保育活動の基礎となっている。具体的には

・各学年共にチーム保育を行い、様々な角度から園児の様子を見守り、適切な援助を行う。
（……同学年 3 名の保育者が共通見解を持てるよう、日頃からよく話し合う）

＊非常勤講師／英語教育

・園児一人ひとりの個性をよく見て、良いところを伸ばすよう心がける。
・園児の自立心を養う。（常に「自分で考えて行動できるようになる」ことを意識する）
・園児に、人に対する思いやりの心、諦めずに頑張る心など「生きる力」を育てる。学園全体の教育信条である・誠実 Sincerity は生き生きと元気に遊ぶ子・勤勉 Diligence はいっしょうけんめいがんばる子、仁愛 Benevolence はやさしく、助け合う子と言い換えられ、具体的な子ども像を表している。

さて、「生きる力」とは、中央教育審議会答申によれば、自分で課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断する力や、問題解決力、また、他人を思いやる心などの豊かな人間性、更には健康や体力など、を重要な要素としている。しかし、一人ひとりの「生きる力」や「個性」は色々な人間の集まる社会の中でこそ相互作用し養われ、育つということを忘れてはならない。「個」を尊重しすぎたり、その存在のみに focus されるのではあまりにバランスが悪い。子どもにとっては、＜幼稚園＞というほぼ初めてというべき集団社会の中で培われるべきものは、家庭を離れ、自分が集団の中にあって、いかに感じ、考え、言動するかということであろう。人間の「生きる力」とは学ぶ力、学び続ける力であると耳にしたことがある。それでは、「学ぶ力」とは一体何か。

学ぶ力は、学ぶ側からみれば、関心、興味を含んだ意識や自己評価や自分以外の人間からの評価、達成感、信頼、安心感のある環境によって支えられるものである。学びを提供する側から言えば、関心、興味を深くする教材や教授法の開発、評価方法の工夫、取り組みに際しての段階的な配慮、学びの物的人的環境の整備ということがいえる。あえて、幼稚園の英語活動に置き換えてみれば、子どもたちが、知的好奇心を刺激されるような theme で興味のわく教材、教授法によって活動がなされ、保育者（英語講師を含む）やクラス内外の存在や自分自身よって、内的外的動機によって支えられた目的意識を評価され、達成感・進歩感をもって安心感のある環境で物事に取り組む。それでは、それを英語活動に置き換えるとしよう。身近に関心を持っている物事に、焦点を当て、興味のある教材、方法で楽しく、能動的に活動が進み、また、自分自身でも、また、クラスの中においても、保育者からも正しい評価が出来、段階的に取り組みやすく、また、達成感を持って、たとえ、間違いがあったとしても、恥ずかしい、もうチャレンジしたくないという気持ちよりも、もう一度チャレンジしたいという気持ちが勝るような取り組みが可能であるということであろうか。

幼児期における異言語教育の目的が本来どこにあるべきなのかという原点から考えるに、その是非はここでは焦点を当てないが、母国語習得に関しても途上にある、物事に何の先入観も持たないこの時期だからこそ英語という一異言語に純粋な興味を持ち、柔軟な感覚で活動に取り組める、言葉に対して、スポンジのような柔軟性を有している時期にこそ、総合的な導入が可能であるに違いないという地点にたどりつく。まずは、listening 聴く、reading 読む、writing 書く、speaking 話す能力の育成といった外国語教育の目標スキルにあまりとらわれることの無い人間教育の基礎とも言うべき活動をめざす。保育者との意思疎通の重要性をさらに痛感した

ことから、前年度より　各学年の保育者との研修以外に時間を設け活動についてランダムに話し合う機会を設けていくことに心を傾けた。更には、保護者との交流にも力を注ごうとの気持ちで臨み、英語図書（カセット CD,VIDEO）の充実も図った。当然、幼稚園児の日常をよく知るのは家庭においては、保護者であり、また、幼稚園においては、保育者であるからに他ならない。しかしながら、英語活動においては、保育者に頼りがちな Class management にも心を配り、自身がしっかりと、幼稚園児一人ひとりに目を配り、活動においての反応や、変化などに、責任をもって観察していく義務を課せられていることを常に意識してきた。活動内容に対する考え方や方法、日常保育との教材の sharing、活動前後に活用される連絡帳などで保育者と英語講師間の Team-teaching の形を再考し、Team-teaching に関して言えば、画期的とはいえないが、少し月日を重ねるごとに、講師の意識や、活動に関する保育者独自の工夫や、英語活動に対する意識の持ち方にもかなりプラスの変化があったように感じられる。この保育者の英語活動における意識については別の機会に研究考察の上、整理し再考していくこととする。前年度より年中、年長共に英語活動内の group 活動に 6 色に分けられた各クラスの英字名札の活用、英語活動も日常の保育との連動を鑑み、活動は各学年の保育室とみくるルーム（一時的には、英語活動はこのみくるルームと呼ばれる部屋で行うこととしていた）での英語活動と保育活動内に組み込まれた園外英語活動などと英語講師の園行事への参加（例・年中園外保育や年長　お泊り保育などへの参加）と無理をせず、幼稚園内での自分自身の活動を広げる事に努めた。それは、英語による保育活動の補佐にもかなりの重要性を見出したことからである。各学年 60 名程度クラスでの英語活動は、学年を追うごとに保育者の工夫と保育活動内でのルールの定着と正比例して確実に落ち着きを増し、年長においては、正規の 20 分の活動から予想外に 30 分に伸びてしまった活動や、2 クラス合同の活動に関しても、かなり高い適応性を持っている。

2006 年度：April ：月の TOPIC を Four seasons ＜ Spring has come ！＞とやや抽象的に定め、

April　17th

① Greeting ： Weather、date、attendance

② Song ： ABC　SONG（review）

③ Song ： NAME　SONG　①（new song）

④ Week's topic ： Easter　eggs（colors numbers）

⑤ Game ： Number game

⑥ TPR ： review

⑦ Greeting ：

April　24th

① Greeting ： Weather、date、attendance

② Song ： ABC　SONG（review）

③ Song ： NAME　SONG　②（new　song）

④ Week's　topic ： Easter egg hunting（colors ・ numbers）
⑤ Game ： Let's find an enormous GOLD　egg ！
⑥ TPR:　review ＋ once ・ twice ・ three times
⑦ Greeting ：
の流れで行っている。この二週間の保育者との連絡帳には、この年度の 1st　week に当たるため、学年付の保育者の欄には、「2 クラスのレッスン（英語活動の意）に参加してクラスに合わせた流れ、学年で共通させる流れなどで　気付くことがあれば、」と記されていた。また、各担任保育者は「どの程度自分が発言していいのか、どのように動くことが　より講師の活動にプラスになるのかなどの指摘の要請や、クラスがまだまだ幼く、活動中に何かあるかとは思う」等の、今回持ち上がりで、年長クラス担任を任され、年中クラスからの成長の様子を把握している様子などを感じさせられる記述が見られる。各担任、学年付共に　保育者としてのキャリアもあり、以前より　幼稚園内の英語活動に関心を持ち、個人的にも英語に対して積極的なメンバーであり、打てば響くといった感のある保育者ばかりである。事実、講師の欄にも、両クラス共に、非常に active かつ楽しいクラスであること、それぞれにその「クラスの個性を活かして英語活動を進めて行きたいという」意向、「ベテランの保育者との Team-teaching に期待を寄せ、活動においても、新しいチャレンジをしていく」計画であることが記されている。2006 年度の英語活動年間の目標は二つ掲げ、①文字と音の関係性、特に音に対する意識を育てる
② Pleasure-learning、つまり、徹底して＜遊び＞を取り入れて、自然に保育生活の中に英語活動が活きるような意識をもったカリキュラム作りをしていく。
とある。具体的にも、英語活動の際、必ず園児が身に着ける名前札の改良、名前札を使った遊びの導入。自分名札を自分で見つけて装着する、自分の名前と他の名前との識別、KYOUKA ・ KYOUSUKE など類似した名前であっても色別されていることで、自分の名前札なのか、違うのかなど識別の助けとなる要素をつけ、まだ文字に対し、意識の薄い園児にも、意識できるような工夫が施されている。この年は、Easter が 4 月にあるということで、初めて Easter を Topic に据え、あまり、宗教性を持たせることなく、英語圏の子どもたち間で楽しまれる一つの遊びとして取り扱い、Book-reading にも子どもたちにはお馴染みの絵本のキャラクター SPOTTY のシリーズ、「Spotty first Easter」（Eric　Hill 著）また、英語圏では人気の絵本のキャラクター Barney のシリーズ、「Barney's Easter stories」（Lyrick 版）を採用し、Easter egg Hunting を伝えた。実際 hunting に参加した園児もおり、活動中にその説明と楽しかったなどの思い出をクラスメートに話し始めた。また、活動として、直径 8 ㎝ほどの金色の卵を探す Game（宝探しゲーム）を行った。ヒントは全て、英語を使って与え、既習の前置詞や、gesture などを保育者がヒントとして与えるといった形式である。この日の学年付の連絡帳の欄には「宝探しは、何歳になっても、何度繰り返しても盛り上がる活動ですね。中略　個人的には、ABC　SONG が一年間でどのように子ども劇場の発表までに至るのか興味大であること。今

はポカーンとはしつつも一生懸命頑張っていますね。」とある。実は、例年、11 月に行われる園の子ども劇場は、表現活動の一環として、第一部に英語の歌と日本語の歌を歌っている。ABC　Song　は　必ずその二曲のうちの一曲として採用されている。保育者は強要する事無く、身体表現としてのオペレッタを子どもたちと話し合いながら、children-centered の形をとってかなりの時間をかけ、作り上げていく。その流れで、歌も何を歌ってみようか？　などの働きかけによって決定していく。2006 年度は、ABC　Song と Hello　Song であったが、前年より ABC　Song は各学年毎に　歌詞の違うものを敢えて選択し、一番を歌った後は、A　aaa、B　bbb の順番で文字の名前、音を出していく形をとり、Z　zzz まで終わったら再び歌を歌う試みをした。四月よりこの音の Input をし始めたので、連絡帳の表現に「今はポカーンとはしつつも一生懸命頑張っていますね。」との記述となったのである。実は、園では子ども劇場は 4 日間に渡って行われており、あくまで、通常保育の一環、延長上にあるという位置付けにある。2006 年度の年長の英語の歌をこの期間に耳にした年少年中の園児たちにもこの歌はインパクトを持って受け入れられるかもしれないとの意図も実はあった。また、活動中には、A　aaa　Apple のように少しずつ、文字、音、その音の入った言葉に繋げていく活動も段階的に導入を試みた。ただ、2006 年度に言葉までの歌を子ども劇場で採用することは考えずに進め、2007 年度の子ども劇場では文字、音、その音の入った言葉に繋げていく歌を歌うに至っている。Hello　Song は 2006、2007 年度世界にも目を向ける視点を有した保育活動であったことから、連動を試み、2006 年度は日本地図、世界地図を使い、自分たちがどこに暮らし、何を食べ、どんな服装をして生活しているのか、衣食住に視点を定め、特に、園児たちの興味に近い、世界のおやつを取り扱った。2007 年度は食べ物と住んでいる動物などに焦点を当てた。

2：年長クラスの英語活動の意義

さて、今回の報告の対象は、年長児である。小学校就学以前の子ども達に、英語活動、母国語以外の異言語の活動とは、一体どのような意義を持つのであろうか？小学校学習指導要領の第 4 章外国語活動、第 1 目標にはこうある。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

この小学校学習指導要領の外国語活動の目標は、まさしく　幼稚園における英語活動の目標と合致せねばならないであろう。幼稚園児には、もっと単純に、新しいことに対する＜外国語に関わらず、全ての新しい出来事に対する＞期待と不安の中に、＜気付き（発見）＞や＜楽しみ．喜び＞を感じて能動的に参加していく気持ちを育成することにも繋がっていこう。幼稚園児の異言語教育は、あくまで、スキルだけにとらわれることの無い人間教育の礎になるものであるとの基本は前述したが、何かができるようになり、意思疎通ができたことでの喜びを基盤に、自発的態度や　ひいては、自発的学習に結びついていくことが理想であろう。また、小学校学習指導要領　第 1 章総則　第 4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項（12）には、

「学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や、地域の協力を得るなど家庭や地域との連携を深めること。また、小学校間、幼稚園や保育所、中学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること」とある。幼稚園での英語活動が小学校での英語活動といかにうまく、一線上になっていくか、連携を考えての活動内容であるべきことは、間違いないであろう。

さて、具体的には、どのようなカリキュラムで、教材、活動が行われていく事が理想であろうか？　年長の一年を通じ、コアとして意識下に常に置いていく Topic の一つに＜ We are all alike, we are all different ＞という自己の認識と肯定、自分以外の存在の認識と肯定がある。2008 年にやっと探し当てたまさしく　タイトル、「We are all alike, we are all different」（SCHOLASTIC MY FIRST LIBRARY, the Cheltenham Elementary School kindergarteners）幼稚園教育が小学校以上の教育機関や教育内容とつながりながら、その時期にきちんと合ったものを取り入れていく。遊びの中に＜発見＞をし、学んでいくとはどのようなことであろうか？

保育のキーワード＜生きる力＞を育てるとは、具体的にはどういうことか？また、英語活動における＜よりよい教育環境＞とは？　英語＜教師の役割＞とは具体性を持っていうならば、何であるのか？　総合的に見て、英語活動の中でも、保育活動内と同様にそのような力の育成が直接的に可能なのであろうか？

＜生きる力＞の基盤を養う幼児期、環境を通しての教育―遊びを中心とした生活の実現を目指し保育活動が行われている中、英語活動のみが、一斉に一方向を向き、座ったままの活動を進めるのは、まず、違和感がある。20 分とはいえ、終わるのをただ心待ちにするような活動であってはならない。基本的には、月曜日の朝、登園、点呼後に年中クラスの 2 組があり、10 時半以降、年長クラスでは活動が出来るだけ行われ、子どもたちの遊びが出来うる限り、分断されないように組み込まれている。2 組（あお.みどり）は隔週交代で 3 番目 4 番目の活動に参加している。保育内容や、行事によっては、昼食後、或いは、降園前に行われてきた。また、保育内容や活動によっては、自身の都合のつく限り、柔軟に年長クラスは月曜日、年中クラスは火曜日或いは、他曜日の出来うる限り、保育やまとまった遊びが分断されないような工夫も試みている。子ども達にとって、英語活動が有効に保育活動に生かされるよう、また、英語活動が保育活動の一環としてあるべき姿を求めてきたつもりである。保育者の協力によって、保育の年間案、月案、週案、日案を必ず手にし、英語活動年間カリキュラムの基本案としている。子どもたちの日常の遊びにも目を向けるため、積極的に園庭や保育室での遊びへの参加、昼食への参加、仲良しコーナーや階段にも足を運ぶこと、或いは、朝、門近くに立ってご挨拶をしたり、子どもたちとの接点を得ることに出来うる限り努めている。そこで、発見した遊びや、子どもたちの言動によって、英語活動のヒントを得ることもしばしばであり、年間行事をただ、スケジュールとして把握するのではなく、保育をのぞいたり、参加したりすることで見える実質的な保育内容の把握は、一日の流れを観察できるよう、幼稚園や学園の計らいによって実現

したものである。子どもたちの毎日同じ条件で登園するわけでは無い個々の姿を垣間見ることで、また、そのときの様子を、保育者から聞くことによって得る潜在的な子ども達の生活のリズム把握と発見は、この二年間の英語活動のコアとも言えよう。

子どもたちの生活のリズムの把握と発見とは、具体的にはどういうことであろうか？　幼稚園における英語活動は当然ながら一斉活動の形式をとっている。この英語活動を始める前の子どもたちの様子を把握することは物理的に難しい。一番目、つまり、活動の始まる前に時間的余裕のあるこの時間には、準備を兼ね、保育室外に用意されているホワイトボード近くで、登園する子どもたちの様子を見ながら、或いは、朝の挨拶や、日常的な会話を英語で発話しながら、子どもたちと接している。活動が始まる時間まで保育室内外の様子や、各子どもたちの様子、子どもたち同士の様子、保育者と保護者間の話や保育者の子どもたちへのアプローチも垣間見ることが出来る。当然、年少、年中では、何らかの理由で涙を流したり、保護者に連れ添われてきたりする園児が見かけられることもあるが、年長の園児達は、各自 2 階にあるそれぞれの保育室に向い、ルーティン化している朝の活動、帽子の着脱や出席ノートへのスティッカーの貼り付け等、自動的に行う姿が見られる。各クラスには曜日毎に、正課の体操、英語などの活動の表がマークとして貼ってある。子どもたちの目が果たして、その表にいっているか否かには、個人差はあるが、子どもたちの歌う一週間の歌には、替え歌ではあるが、英語活動、体操などの具体的内容が歌詞として反映されており、保育者が自然に子どもたちの日常にそういった側面からも意図して　導入していることが明確にわかる。また、階段の踊り場のスペースを英語活動のスペースとして提供、或いは、内容によっては、保育室内にも、内容導入の教材チャートや資料、を貼るスペースを設け、積極的に内容導入や、内容定着を図る一端を担っている。これらは、この数年に渡り、各学年単位、或いは、各保育者のスタンスによって、英語講師の働きかけなしに行われるようになってきている。例えば、異文化理解として　毎年導入している　HALLOWEEN の activity などに関しては、TRICK-OR-TREATING に使用する treating-bag や costume の製作等　子どもたちと話し合いをし、決定し製作、activity を楽しみに待つ motivation（動機付け）を十月初旬に行われる運動会への取り組みが終了直後に始めている。時間をかけて、一つの活動につなげ、好奇心を持って取り組む姿勢や環境つくりは、まさしく、保育者によって支えられている。子どもたちの視線に立つために、ただ、活動を与えるのではなく、子どもたち自身が自ら考えて、取り組めるようにキーワードを与え、ヒントから引き出された子どもたちの言葉に耳を傾ける保育者の言動が、これらの活動に意味を与えているのである。HALLOWEEN の活動を 10 月 31 日当日に当てることは、現実的にはなかなか困難である。本来は 10 月 31 日であるが、英語活動の HALLOWEEN の activity は何日だから、この日を目標に＜完成させようね＞の言葉かけによって、目標設定をし、取り組む姿勢は、主体的活動に当たるものであろう。

5 歳児（あお・みどり組）

教育目標：誠実　勤勉　仁愛

以下は平成 19 年度に使用された案より一学期の部分を抜粋。
5 歳児　一学期（Ⅰ期）4．5 月：大きなねらい＝育てたい方向性
年長組になったことを喜び、新しい生活や環境に慣れる。
年長児としての自信と誇りをもち、年下の子どもの面倒を見たり、園内の環境整備を行う。（年少の世話、係）
友達や保育者と考えを出し合い、話し合いながら、遊びや行事などを作り上げていく。
内容：具体例のみ抜粋
新しい保育室の環境に慣れる。（トイレ、朝の身支度など）
ルールのある集団遊びや体操に参加し、友だちと体を動かして遊ぶことをたのしむ。（くもちょう・放射線鬼・リレーなど）
（中略）
感謝の気持ちを込めて丁寧にプレゼントを作る。
野菜の苗を植えたり植物の種をまいたりして、生長を期待しながら水やりなどの世話を進んで行う。（トマト・ブロッコリー・キュウリ・ヨモギ）
交通ルールやマナーを意識しながら園外での活動を楽しむ。
（郵便局、三四郎池、職業体験）（後略）
歌遊び：月火水木金土日の歌・はやくちことば・ロックマイソウル
　　虫歯建設株式会社・だいだい大冒険のうた
製作：こいのぼり（子どもたちがスポンジを使用し、タイベックス紙に色を施し、クラス全員のものを紐通しでつなげ、こいのぼりを製作）
　　母の日のプレゼント製作（牛乳パックでマグネット付小物入れの製作）
　　自分の顔（保育室の誕生表の顔をラインは水性ペン、色塗りはクーピー）
　　木工
　　キッザニア小道具・衣装
遊び・体操など：放射線鬼・くもちょう・リレー・まきまきゲーム
ラウンドチェーン
英語： Let's play a number game
援助配慮・環境構成：不安を抱いている子どもに対して、必要に応じて保育者が援助したり、時には友だち同士で助け合えるように、年中時に親しんだ遊びを取り入れ、安心して過ごせる雰囲気を作る。

友だちと楽しめる活動の場を多く用意し、その中で自分たちの意見を十分に出し合えるように保育者はできるだけ見守る。

木工活動では、必ず保育者が付き添い、子どもたちが無理なく段階を踏めるように、環境を整える。園外活動でのマナーを考え、自分たちでルールを作ることで守ろうとする気持ちが高まるように促す。子どもたちの興味関心が膨らむように、子どもたちのつぶやきや発見を取り

入れ、周囲の子どもたちにも伝えていく。係活動に対する意識が持てるまで、保育者が積極的に声かけを行う。

子細に渡った計画表から、保育との連動が出来そうな英語活動を試考して、カリキュラム作成に入る。Fearon Teacher Aids Every Day in Every Way　（A YEAR-AROUND　CALENDAR OF PRESCHOOL LEARNING CHALLENGES）を参考に、（但し、9 月始まりの 8 月終了の yearbook の為、4 月始業の日本の幼稚園に合わせて参考）異文化理解の要素を盛りいれる。例えば、key-word としては、このⅠ期、新しい環境・環境整備・ルール、季節の行事とその意味について、感謝の気持ち、自然の中の生長・子ども自身のつぶやきと発見などに重点を置き、挨拶、活動時のルール、英語活動の際の名前札（従来、安全ピンで着用の名前札を改良―首にかける形にし、ゲームなどにも活用できるように、また首にかける紐が長すぎたり、気になって無意識に名前札で注意が散漫にならないよう長さの調節や名前札に関するルール作りを　保育者間で話し合い子どもたちに浸透させている。また、TOPIC-LEARNING ：母の日に合わせ、Good morning，mama ！などの歌を導入、各クラスで振り付けを考え、楽しんで歌を歌い、関連して、動物のおかあさん、お母さんがしてくれることを扱った Book-Reading を行った。具体的には　1st activity、2nd activity にあたる二週間の活動の例をまず挙げよう。

April　16th ：みくるルームにて：

10 ： 30 よりあお組　10 ： 55 よりみどり組

この日のあお組の日案には

主活動；英語、こいのぼり製作とあり、9 時 10 分からの登園。身支度。

年少手伝い。9 時 30 分集まり。出欠。挨拶。今週導入事項のお話。

本日の活動の話（こいのぼり）英語活動の時間の告知（10 時 20 分に保育室集合の旨）一旦全員が保育室に集合した階下のみくるルームに移動、BOY/GIRL/BOY/GIRL の順番で三列に着席。保育者と講師の Team-teaching の形をとっているため、保育者のメモとして、子ども目線で英語活動への子どもたちの反応、理解が難解、不十分な際に、保育者が適宜に日本語を入れ、STOP をかけて、「... ってなんだろうね？きいてみようか、」などの声かけをし、子どもたちの反応や疑問に対する配慮事項が記されている。

さて活動内容を見ていこう。

① Greeting ： Weather date Attendance

出欠確認については三年前から行っている。各自名前を呼ばれたら、Yes Here Present などと一人ひとり答える。年中からこの出欠確認は行っているので、ほぼ、全員元気に答え、最近では、欠席している子どもの名前の際は、園児自ら、No.（He(She)　is） absent.との反応が返ってくるようになっている。

② Warming-up ： ABC　SONG ①

（年中 version の復習－ ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXY and　Z

Now I know my ABC'S．Tell me what you think of me.）

年長 version の導入－ ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXY and　Z
Now I know my ABC'S．Next time won't you sing with me）
―メロディが同じであること、また年中時の子ども劇場にて　年長児の ABC　SONG の発表を耳にしているせいか、毎年抵抗無く、すんなり導入できる）
個人差があるため、最後の歌詞の部分に関しては一年間をかけて丁寧に指導していく。また、CD を使用し、歌の後の、Aaaa、Bbbb の文字の名前と音の関係の導入の糸口として、かなり極端に歌われているのだが音に興味を持てるよう 2 度ほど native が面白く歌っているものを聴かせる。最初にこの CD を耳にした子どもたちの中には　吹き出したり、口々にそれぞれの感想を口にする。回数を重ねると抵抗も無くなり、音そのものを正確に出すことに集中できるようになってくる。また、Aaaa，apple の形式で文字の名前、音、言葉といった繋がりに発展させ、また、Aa，apple，ant，（短母音）ape，apron（長母音）など、おなじ A であっても発音の違いに注意が向く activity や年長児には 26 文字のチャートを大文字小文字　Aa の形で初めから導入していく形式をとっている。年少から Book － reading などにおいて　大文字　小文字は目に触れてはいるが、意識して UPPERCASE　LOWERCASE を導入している。ただ大きさの違いのみの C や K、O　P　S　V　W　X　Z について UPPERCASE と LOWERCASE では形の全く違う文字などは、game 感覚で取り組めるように考慮し、あくまで　見て分かることを目標に activity に取り入れている。真似をすることに抵抗の無い子どもたちは、非常にうまく音を捉え、音を再生する。子音に関しては丁寧に母音が入り込まないよう繰り返し音をきかせていく。
③ TOPIC:BIRTHDAY
HAPPY BIRTHDAY SONG ： 12months ①
When is your birthday ？　の質問では　子どもたちに自分の誕生月に挙手してもらい、年少より Warming-up として　12 ヶ月の言い方を Input、年中でも月日　曜日の Input-Output を重ね、耳慣れている 12 ヶ月を自分のお誕生日を関連させる。毎月 HAPPY BIRTHDAY SONG を活動内で歌う計画で進めたが、お休みの月などがあり、また、跳ばしてしまった月などもあり、反省している。今後は、月一度水曜日にあるお誕生日会で　一番は日本語、二番は英語といった形で導入依頼を考えている。How old are you ？　I'm five（years old）必ず指で 5 を示しながら等の dialogue の導入
④ Book reading ： Happy birthday to you ！
⑤ Game：Number Game ：この遊びは子どもたちにとっては、日本語で既に導入されている＜猛獣狩にいこうよ！＞の変形でもあり、1 2 3 4（one, two, three, four）、1 2 3 4 （one, two, three, four）（両手の平で両足腿の部分を軽く四回たたく）Let's play a NumberGame! と言ったところで　Listen to me carefully, now I'm goingto tell you one number，for example when　I say 3．You should find 2 friends、when you are three persons in total, you can sit on the floor．And you are a winner．If　you can't find your friends, you are only one, you are two, four and more you are a loser!　Do

you understand our rule? Anyway let us try the game! Are you ready? 1 2 3 4, 1 2 3 4, let's slap your thighs with your hand! Let's play a Number game! Listen to me carefully, Number … Two! Find your partner! You need one friend. Did you? Let's check the number! One two, You're winners. one, two, Ok! One , two, three, oh, no, Too many. Come on, three of you. Your turn! Decide one number. And say it loudly! Now did you decide the number? Everybody、listen to them carefully! Now one, two, three, four, one, two, three, four, . . . 子どもたちは次第に自分の知っている一番大きな数を言い、18って英語でなんて言うの？　などと英語の数について好奇心を抱く。中には、一クラスに30人ということをすっかり忘れてなのか？或いは、「こんな数も英語で言えるんだ！」なのか「one hundred!」（　百人!）と言う園児さえ出てくる。単純かつ能動的な姿勢を生むGameの一つではあるが、必ず　中には、仲のいいお友達と離れてしまって、集中を欠く園児や　うまくゲームのリズムに乗れなかったり、数が少なすぎたり、多すぎにもかかわらず　座ってしまうグループ、他のグループに指摘されて右往左往するグループ、一人でただ　うろうろしている園児、両手を二つのグループに引っ張られて泣きそうな園児など. . . 問題を含んでしまうケースもある。ルール作りやルール遵守を保育内容と重ね話し合ったり、とことん説明できない時間の制約に苦しいときには、クラスに戻ってから　必ず保育者のfollowingがあるのは　大変有難い。子どもたちの疑問や問題がどこで起きようとどのような種類の問題であろうと、保育者が常に園児に必要と思われる手助けをする、Here and nowの原則が生かされている。

⑥ TPR : Total Physical Response : 年中クラスで既習した動きを復習を兼ねて行う。Stand up ・ Sit down ・ Run ・ Stop ・ Walk ・ Stop ・ Dance ・ Stop ・ Sleep ・ Wake up ・ Clap your hands three times ・ Touch your ears ・ Turn around ・ Hop ・ Jump twice ・ Now stretch your body

⑦ Greeting : That's all for today. Good bye, everyone. Have a nice day.

この日の連絡ノートには両担任から　それぞれ初めてのみくるルームの活動だったが、集中して取り組めた様子や、降園前にNumber Gameを取り入れての　子どもたちの様子や、みくるルームでの活動では、気持ちの切り替えが可能である様子、英語活動内のNumber Gameの際、鬼になった園児の一人が、Number16と言ったことでみくるルームを16人のお友達を探すために大盛り上がりだった様子など記されていた。また、学年付の保育者は、担任とはまた違った視点で、日本語でのNumber Gameの導入が少なかったにもかかわらず、英語でのGameも　理解が早く、楽しめていたという記述があった。基本的には、二つのクラスを観察できる学年付のこうした記録は非常に参考になることが多い。それぞれの担任が、自分のクラスではなく、Team-teaching Teacherとして前に立ったり、また、学年付の保育者がTeam-teaching Teacherとして前に立ったり、キャリアに関係なく、そういった機会を自主的に持つ保育者の姿勢に、少なからず　子どもたちは好影響を受けているように思う。また、特記すべきは、保育者の英語活動・英語そのものに対する積極性である。子どもたちが興味を示すTOPIC、例えば排泄物に関する絵本の提供や、色彩的に素晴らしいので私費で英語圏にて購入したと、絵本の提供をしてくれる保育者も一人や二人ではない。いつ　どこでも常に保育者の

視点で、何が出来るのか？を問い、子どもたちに豊かな愛情を注ぐ、その延長上にこうした言動があるのだろう。

April　23rd

各保育室にて英語活動 10 ： 35 よりあお組　11 ： 05 よりみどり組

① Greeting : Weather ・ date ・ Attendance

② Quiz : お絵かきクイズ：既習した shapes（circle ・ triangle などの形を使って英語で drawing-quiz : Carp　shaped　streamer

③ Warming-up : ABC　SONG

④ TOPIC : BIRTHDAY ②

HAPPY BIRTHDAY SONG : 12months ②

When is your birthday ？

How old are you ？　I'm five（years　old）必ず指で 5 を示しながら dialogue の復習

⑤ Book-reading ： What can you do ？

Can　you。。。？ Yes ・ No（お誕生日会でぼくはこれができるよ!私はこれができるの!と次々に自分に出来ることについて発表していくお話）

⑥ Game : Number　Game ②

⑥ TPR : Total　Physical　Response : review　・ Twist

⑦ Listen : to : this ！ Good : morning、mama.

⑧ Greeting : Good　bye　to　you ！

この日の連絡ノートには、Number　Game 中に起こった予想外のトラブルについてと ABC SONG について　年中で歌っていた歌詞から年長で歌っていく歌詞の移行についての方法、Book-reading で使用した BIG　BOOK　What can you do ？の内容と言葉が繰り返しによって日本語による説明がほぼ　不必要に感じたなどが記されている。また、講師は期待や楽しみを膨らませる意図で来週より導入予定の chants の CD を聞く機会を設けたのだが。

「保育者が何だか聞いたことのある言葉があるね！楽しみだね！」などの言葉かけをしてくれている。こういった言葉かけは次回の英語活動や保育活動―母の日のプレゼント製作などにもつながりを持たせる意味があるのかもしれないが、保育者の役割は　英語活動においても、保育者の多種多様一瞬一瞬の判断の重要性を感じないわけにはいかない。物的　空間的環境の構成とはまさしくこういった場面に一人ひとりの活動の場面に応じて　様々な役割を果たし、活動を豊かにする役割があるのである。英語講師が 20 分の活動をする前後に果たされる保育者の役割、英語活動 20 分の中での保育者の役割を考えると、20 分の英語活動の主目的をきちんと把握した上で、いかにコンパクトに子どもたちに伝えたいのかをあらかじめ保育者に伝え、話し合って不必要なことを削いでいくかが重要であることに気がつく。どうしても欲張って、盛りだくさんになりがちなカリキュラムに重要なことは、TOPIC を設けても一体何に focus して 20 分の活動を進めていくか、子どもたちが　20 分という時間に＜あっという間に終わって

しまった!もう少ししたかった!>という気持ちを抱くような活動の進行が理想ではある。

（Ⅱ期）6　．7月：

旅行に向けての計画や準備についての話し合いに意欲をもって、参加する。

積極的に自分のやりたいことをみつけ、その遊びを通して友だちとかかわって楽しむ。年長旅行は例年学園の軽井沢セミナーハウスにて　一泊二日の冒険旅行として企画されている。保護者から離れての自立の第一歩として、保育者は全学年を挙げてサポートしている。その冒険旅行に英語講師も参加し、3年目となる。平均6人のグループには保育者が一人ないし二人つき、寝食を共にする。この冒険旅行は、毎年 theme が決められ、4月より年長の保育担任、学年付が工夫を凝らし、達成感をそれぞれに感じられるような活動が練られている。セミナーハウス内の冒険に始まり、一例を挙げると、task を与えられ保育者と共にグループ毎に *challenge-tour* に時間差でセミナーハウス外に出かけていく。Task の中には、Rock my soul をグループ全員で元気に歌う、quiz を解いてヒントを探し、達成できたグループは証となるような全員共通の記念品を与えられるといった形式である。さりげなく　保育者は　英語活動の要素も加え、子どもたちの達成感を担う材料として　英語の歌を利用している。一人では歌えないが、グループのみんなとだったら歌える、普段は大きな声で歌うのは恥ずかしいが、グループの目標達成の為だったら　頑張って歌う！英語活動に関わらず、普段は手遊びには関心の薄い園児でも、task として手遊びをみんなで協力して全員が出来るよう工夫する。誰一人として諦めることなく、また、苦手な友達には惜しみなく、知恵を絞り、手を貸す。Task-based のこの遊びの中での子どもたちの姿には　すばらしい発見が毎年ある。英語講師はこの冒険旅行で初めて、積極的に日本語も話せることを子どもたちに知らせる。普段、園にいる時間は極力、子どもたちにも、保護者にも英語でのコミュニケーションをとることを心掛けているのだが、危険が伴うような事態に英語を使用し、それによって子どもたちの判断が遅くなるようなことになっては本末転倒だからであるのだが、不思議なことに、この冒険旅行後の9月からの英語活動に、また英語のみを使用したり、園内外で年長児に言葉かけをする際　英語のみになってもなんら問題がおこらない。子どもたちは、相変わらず“Mrs. Ueno, good morning!　How are　you ？”と声を掛けてくるのだ。

さて、このⅡ期の英語活動を紹介しよう。第1週にはカタツムリについてのまとめをしている。三四郎池への小冒険を終えた第2週と第3週、全体で言うと 7th activity と 8th activity に当たる。

June　4th

Day trip to Sanshiro pond ：園外保育：三四郎池への小冒険

徒歩にて　東京大学構内にある三四郎池を訪ねる。三四郎池ではグループ毎に小冒険を保育者と共に体験、一巡し、構内で昼食、ミニゲームを楽しみ、帰園。

小冒険でも、Rock my soul を歌ったり、Number Game を楽しんだりし、屋外英語活動を楽しみ、“Watch out!　A car's coming!”

“Hurry up!”“This way! ”“That way!”“Stop!”など公道以外で　危険を伴わない場所を確認の上、英語を聞かせたりするチャンスとして　園以外の場所で使う言葉を標識を指差しながら使用してみた。また、三四郎池の帰りに立ち寄った交番でのおまわりさんとの時間の活用として、地図を作り、訪問した郵便局や幼稚園から東京大学、三四郎池、交番などの位置関係を示し、方角　東西南北を保育にて導入済みの磁石に合わせて、階段踊り場の英語コーナーに貼り、関心を深められるよう環境作りを試みた。

June　18th

みくるルーム：あお組 9 ： 40　みどり組 10 ： 05

① Greeting

② Warming-up ： ABC　SONG、Good morning、papa

③ TOPIC:　Adventure

This is a map near our kindergarten!　地図を見ながら、園外保育で訪れた Bakery-flower shop-Post office-Tokyo university-Sanshiro

Pond-Police box-etc など身近なお店や公共の建物などを導入。

④ Book-reading ： Daddies do best で

動詞の導入： ride　a　bike ・ make　a　snowman ・ bake　a　cake

Help ・ give someone a piggyback ride など

⑤ TPR :

⑥ Game : play　JANKEN ！

⑦ Greeting :

七月に入ると二回ほどの英語活動で夏休みとなる。例年大きな TOPIC を据えず、夏に関する Vocabulary の入った紙芝居やあお・みどりの合同によるお楽しみ活動： beans bag を使ったゲーム、名前札の色や文字を使った Fruit basket 形式のゲームや、体を使ったり quiz に答えたりしながらすごろく形式で Adventure-Game をしている。幼稚園の hall 壁全面に予め、島や海の絵また謎の家や橋、矢印やどくろやバツの危険マーク、quiz が解けた時に手に入れられる KEY などを貼り、グループ毎に出発し、他のグループは Rock my soul や Quickly ・ slowly － pace など指示された pace で歌を歌い、応援して待つといった内容である。これらのゲームについて改善すべき点が多くあり、まずは時間の超過、順番を待つグループへの配慮、ルールの工夫などが挙げられよう。加えて、保育者との連携への工夫も　講師側に必要とされている。

二学期（Ⅲ期）：9　．10 月

みんなで力を合わせて試したり工夫したり繰り返しながら成功感や満足感を味わう。みんなと協力しながら、自分たちの遊びを展開していく。

運動会やキッザニア（H19 年度）Cooking, Halloween など行事の多いこの時期であるが、保育者は常に　丁寧に環境構成、援助配慮をしていく。

運動会においては、「勝ち負け」にこだわりすぎず、みんなで力を合わせることの大切さ、

楽しさを実感できるような雰囲気作りを心がけ、キッザニアに対しても、いろいろな職業を自分たちなりに表現できるように、話し合う場を設けたり、材料を十分に提供したりする。とある。園外保育で訪ねたパン屋さん、お花屋さん、パトロール（警察官）アナウンサー、レストランのウエイトレスさんやチケット売り場や銀行など、衣装、小道具、チケットの製作などを保育に組み込み、当日を十二分に楽しめるような配慮、工夫のヒントを与えている。

ちょうど　お店屋さんごっこに必要な May I help you? や Here you are!　This is for you!　などの表現を導入した。英語活動の Main　Topic は Cicada　せみの一生である。

Sep.18th　20th　英語参観

① Greeting ：

② Warming up: ABC SONG:

Letters and sounds quiz: What is the first letter?

③ Song : A sailor went to sea　手遊びうた：Level　1 から 4 までチャレンジすることを子どもたちに告げる。

④ Topic : A life of Cicadas : この活動はこの幼稚園の保育者の英語活動に対する意識にも英語教育にも多大なる力を注いでくださった前任者が開発改善したものである。

Repeating　activity として一週間のせみの様子を動きに合わせて導入

① Come（せみが土の中から這い出してくる gesture を子どもたちと考える）せみになったつもりで I come on Sunday.　導入当初は Monday から始めていたのだが　一週間の歌が Sunday、Monday、Tuesday と始まるので統一することにした。② Play（play はせみがじゃんけんをするのは不自然だが、遊ぶという動詞を身近にするために　“Play soccer? play tag? play　janken?” と問いかけたとこと単純にじゃんけんを楽しむために、“Play　janken!” と講師対子どもたちでジャンケンをする。実際、単純なゲームながら盛り上がって何回か chants を中断するほどである。I play on Monday.　③ Eat（最初は、ハンバーガーでも食べるような gesture だったが、何かを食べる gesture をとの問いに　子どもたちから　せみはストローみたいな口だからと sip する（吸う）まねとなった）I eat on Tuesday.　④ Sing（マイクを手に歌うせみ。これもせみとして考えてみれば変な感じだが自然に歌う gesture はこれに決定した）I sing on Wednesday.　⑤ Fly（これは　羽をバタバタさせて飛ぶせみの gesture）I fly on Thursday.　⑥ Sleep（これは、TPR の際　両手を重ねて眠っている gesture があったため自然にこの振りに）I sleep on　Friday.　⑦ Fly again（導入当初は I go on Sunday.　とせみが死んでしまうことで一週間を終わらせていたのだが、二週間或いは種類によってはもっと長く生存するということで再び　飛んでいったという I fly on Saturday again.　で終わることにした。この日の連絡帳には、読み聞かせに関して保育者が気がついた点、端に座っている子どもが見にくいので、ゆっくり絵本を左右に動かして見せたほうが見やすいとのアドヴァイス、曜日の導入に際する一案として、もう一度確認の意味で一週間の歌の導入が記されていた。講師としては導入済みと勘違いしていたので、このような指摘は大変助かっている。

⑤ Quiz ：せみに関する questions and answers

A:せみの赤ちゃんは何年土のなかにいるのかな？

How many years have the cicadas stayed under the ground ？

① 1year　② 3　years　③ 5　years　④ 7　years

時間や年数の感覚に個人差のある時期なので必ず、具体例として

①赤ちゃん　②年少さん　③年中さん　④小学一年生位などの表現の補足

B:男の子のせみ、女の子のせみ、どっちが鳴くの？

Which cicadas can sing, boy cicadas or girl cicadas ？

① boy cicadas　② girl cicadas　③ both、boy and girl cicadas.

C:せみの好きな食べ物は？

What food do the cicadas like ？

① banana juice　② miso soup　③ sap（liquid juice in plants or tree）④ chocolate

これらの質問は二回の活動に渡って行い、興味のある園児に　調べてみてね！などの言葉かけをする。　さて、幼稚園児は非常に小さなものに注目する。年少児も年中児も、勿論、年長児もだんご虫の収集には余念がない。当然苦手な園児もいるが、園長先生に大きな石を動かしてくれるように　わざわざ職員室に頼みにくるほどだ。都内とはいえ、野菜畑などが整備されている園庭には様々な生き物が生息している。野菜畑には、ミミズも、糞ころがしもいる。かたつむりや青虫、毛虫もいる。A very hungry caterpillar を読んだときには、本当にさなぎになって、蝶や蛾として羽化する姿を見ることが出来る年もある。英語活動への理解者・協力者によって　本当に大きなかたつむりを飼育できることもある。せみの抜け殻も、とんぼも生きる教材として提供されてきた。それは、保育者の呼びかけによるものであったり、子どもたちと関わるものの熱意や想いの具現化である。インターネットが発達し、せみの鳴き声さえすぐさま聞けるような時代であっても、或いは、美しい写真の入った本の中で見るかたつむりよりも、飼育箱に入ったあらゆる角度から　視覚、聴覚、触覚、嗅覚などの自らの五感を使える本物の生きたかたつむりが子どもたちに大きなインパクトを持って、彼らの興味をそそり、知的好奇心を刺激することは間違いない。虫の苦手な園児さえ、遠巻きに見たり、人づてに様子を伺っている。ピアジェやビゴッキーをはじめとした発達構成論者や発達近接論者の唱えたふうせん的発達観、発達は大人や教師が主導していくのではなく、子ども自らが自らを膨らませていくことにあり、大人や教師の役割は、そのふうせんが破れないように支えていくことであろうという考え方である。教育的に十分配慮された人的、物的、更には、社会的、自然的な環境の構成とは、こういったことを指しているのではなかろうか。園児の主体性と保育者（英語講師も含む）の意図性のバランスについても長期スパンで環境を整えていくための日常的な協力者への働きかけや、絶え間ないチェックなどの積み重ねによって機能するものといえよう。本年度は第Ⅲ期までの大きな流れと活動の方向性、大まかな内容を示した。考察には至っていない感もあるが、保育との連動と一言で表現することは、簡単であるが、日常保育のどの部分に焦点

を当て、どの程度掘り下げていくのか、具体的には同じ Topic を英語を通してどんな切り口でアプローチし、園児たちの何を goal とするのか？　ただ　楽しく時間が過ぎていくのではない、英語活動の明確な目標をどう据えていくのかなど、三年間第Ⅲ期までの経過を記した。活動の Routine 化によって、園児は、クラス単位という所属感を持ち、ある程度安心感をもって活動環境に慣れ、自信を持って出来る活動の種類も増してきた。活動の Level を何段階かに分けることで、　達成感を得、更にチャレンジする気持ちを育めるようにもなってきた。全体活動―グループ活動―ペアー活動―個人活動など活動の種類の変化をつけることで定着を目的とした活動に慣れすぎる、マンネリ化の軽減もはっきりと分かってきた。一斉活動のダイナミズムを活用できる教材や活動方法もわかってきた。体を動かすことで 20 分の活動をさらに活性化させ、メリハリと主体性を持って活動を進行させていくこと等でカリキュラム編成のベースを整える必要性をさらに感じる結果となっている。個々を生かし、集団を活かす、年齢、発達段階、知的好奇心と興味、活動環境、子どもの人数　保育者がかなりの時間とエネルギーを使って立てる日案　週案　月案　年間案にヒントを得、それらの計画と実践と到達目標の実際を検証し、園児の＜いま＞を知ることにある。カリキュラムを確実に遂行することが、決して先行されてはならない。園児の興味を知り、さらにその興味を保育者（講師を含む）先導ではなく、共に深く広げられる内容と教材・方法・時間配分でなくてはならない。園児自らが次々に活動を展開できるよう環境が配慮され構成されている。園児の主体性と保育者（講師を含む）の意図性が常にバランスを保持できる体験型カリキュラムが必要となるわけである。年間の目標は、年長児の場合、小学校という新しい環境に合わせる要素が大きい。就学前に育つべき要素全てを幼稚園のみで整えることは、至難の業である。しかし、小学校で学ぶべき内容を前倒しに学ぶ必要は全くない。新しい環境に備えて＜こころ＞が育っていること、＜こころ＞が園児の内部で準備されている状態であることが重要であるべきある。未知なる物的・人的環境・自然・社会環境に適合すべく、またその中で、自分と自分以外の存在をどう捉えていけるか、一個の人としての長い道のりのための途上にあることを英語活動を任されるものとして、一人の保育者として、自身が常に意識し、園児と共に、他の保育者、保護者と共に実践を重ねて行くことが、絶対条件ということは、間違いない。

参考文献

Cynthia Holley and Faraday Burditt （1989）Every Day in Every Way, FEARON.
Mary Beth Souza（1998） How do American Elementary school kids
Learn English?, はまの出版.
Jean Brewster and Gail Ellis with Denis Girard （2000） The primary
English teacher' s guide, Longman.
（2008）幼稚園教育要領　文部科学省
高旗正人・相原次男（2002）「生きる力」を育てる教育へのアプローチ「生きる力」を育てる教育の創造⑦　黎明書房

（1997）「幼児一人一人のよさと可能性を求めて」東洋館出版
（2001）幼稚園教育要領解説　フレーベル館
無藤隆（2006）実践新幼稚園教育要領ハンドブック　学研
幼児言語研究会編　幼児のことば教育入門　一光社